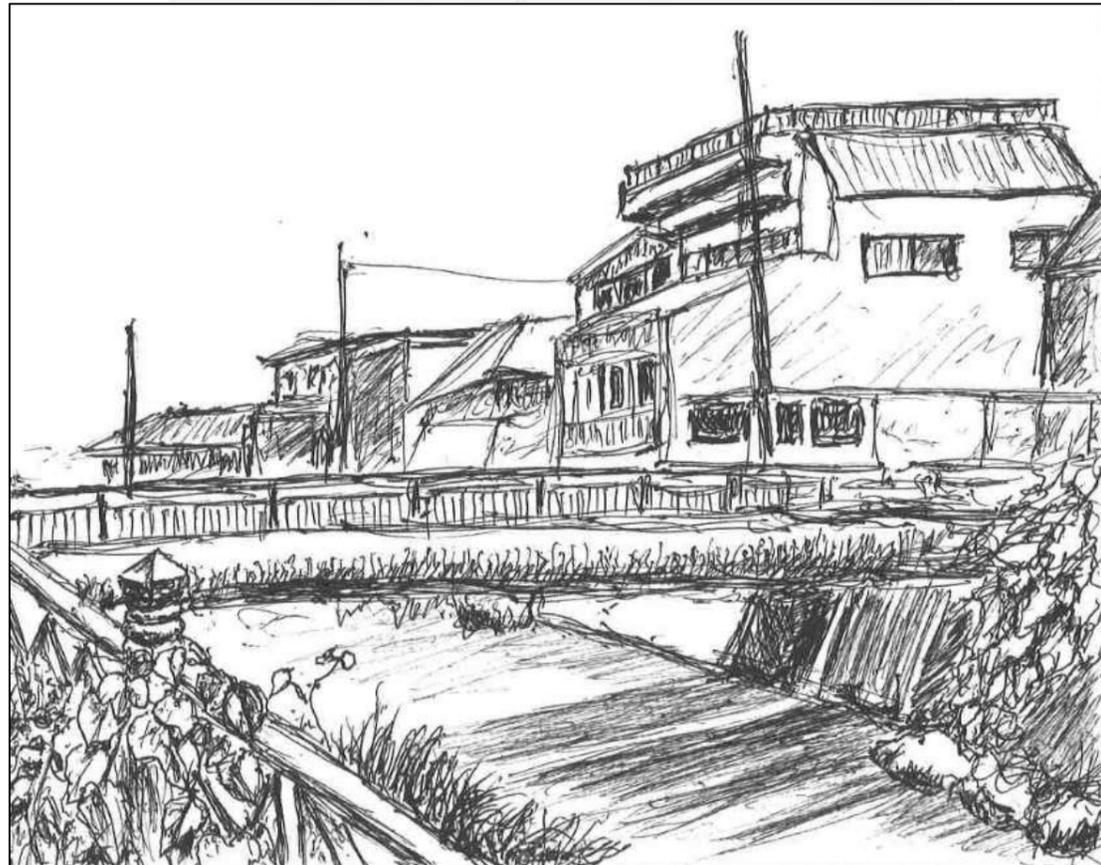


# いたちかわらばん

通刊 83 号 鮪川・狹川 / 川原番・瓦版 19 秋号



【ペン画 宗森英夫】

左岸上流から見た「海里橋」

## いたち川を渡る水管橋

上図の「海里橋」の脇には、太い水道管がついています。これは、いたち川に架かる水管橋で、水管橋とは、単独で河川や道路等の上空を横断する通水管のことです。水管橋は、橋下に添架されているものもあります。が、その他に地下を潜るものや、独立した橋による構造があります。水管橋は殆どの場合「パイプビーム水管橋」でパイプ構造の内部の空洞を利用して通水管とした構造です。

水管橋には、構造的に分類すると小スパンの場合は、管路本体による単純支持形式、アーチ形式があり、中大スパンは、フランジで補強形式、トラス補強形式、アーチ補強形式があります。

海里橋上流部にあるこの水管橋は、現在は 600mm の水道管が単純支持形式で設置され、右岸側の収縮装置によって可動支持となっています。10 年位前までは両端固定のアーチ橋で、高さ 2m 位のアーチ型はいたち川のシンボルとなっていました。が、改修工事では現在見ることができません。

その他に、いたち川周辺に配管されている大口径送水管を紹介すると、横須賀市単独の「有馬系統」送水管と横浜市と横須賀市の共同の施設の「小雀系統」の送水管があります。「小雀系統」の送水管は公田小学校下で山に登るところで地表に出ているので見ることが出来ます。この送水管で相模川の寒川取水堰で取水した水を小雀浄水場まで運び、浄水された水は朝比奈分水池で分配され横須賀市内に送水されています。

(水・人・子)

## わくわく いたち川『ひかりかるた』

本郷台小学校4年3組(2018年製作)の紹介 ③

「いたちかわらばん80号発刊記念展示会」から早くも1年がたちますね。5年生のお友だちみんな元気のことと思います。『ひかりかるた』がいたちかわらばんの大人の読者から好評なので紹介を続けます。

いたち川の魅力が素直に表現されていて、「みんなが、栄区が好きです」と思うみなさんの気持ちがとても良く伝わってくるのが人気のヒミツだと思います。㊦㊧㊨㊩の4札を紹介します。情景を想像しながらおたのしみ下さい。(㊪は81号で紹介しています。)

- ㊦ あおさがが遊んでいるよ いたち川
- ㊧ いたち川 鳥や魚の遊び場所
- ㊨ 江の島へ 豊かに流れる いたち川
- ㊩ おそなえ物 いたちの家族に ありがとう



(うめおきな)

## 読者からのたより

「いたちかわらばん」を楽しく読んでいます。新たに森や自然の大切さが伝わってきます。栄区は、市民の森が数多く残されていて、それに関わり森の自然を保護していく愛護会の人達のそれぞれの努力と活動に、行政、学校では環境、自然の大切さを学び、川遊び等も体験出来る、他では見られない事です。以前は田んぼ、沼地にいたザリガニ、アメンボなども近年ではほとんど見る事もなくなりました。荒井沢市民の森で発見した時には子供時代を思い出し感動しました。このような森や自然環境は人の癒しの憩いの場になっています。いつまでも後世に残せるようにと願っています。

## 隊員募集

いたち川 OTASUKE 隊のメンバーになってみませんか・・・  
月1回区役所に集まって、歴史や環境等身近なおしゃべりをして、いたちかわらばんを発行しています。気楽に参加して下さい。会費は無料です。  
興味のある方は栄区区政推進課にご一報を・・・

## ☆いたち川中流域ウォーキング☆ “4ヶ所の水辺の広場を巡る”

ふるさとの川事業によって作られた水辺がいかに自然に蘇ったか散策してみませんか。

日 時：令和2年2月18日(火)

栄区役所(10:20)出発→大いたち橋・小いたち橋→天神橋→上耕地橋→小長谷橋(巡礼供養塔)→桂橋→日東橋→扇橋→扇橋水辺(トイレ休憩)→辺瀨橋→稻荷森の水辺広場→葉月橋→中坊の水辺→石原の水辺→石原橋→解散(予定12:00)

\*雨天中止。中止の場合は、前日ご連絡します。

集合場所：栄区役所 本館玄関前

集合時間：10:00

参加費：100円(保険料等)

持ち物：飲み物、昼食(自由)、雨具

参加人数：20名(先着順)

参加要領：参加希望者は、葉書、メール、FAXで住所・氏名・性別・電話番号を明記の上、令和2年1月29日(水)までに下記に応募して下さい。(当日消印有効)

応募先：〒247-0005 栄区桂町303-19

(電話) 894-8161 (FAX) 894-9127

(アドレス) sa-kikaku@city.yokohama.jp

栄区役所区政推進課企画調整係 鋤柄(すきがら)

※内容については、和久井(いたち川 OTASUKE 隊、080-3498-0552)まで

## 発行：狹川 OTASUKE 隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE 隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係

〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19  
TEL 045-894-8161 FAX 045-894-9127

栄土木事務所下水道・公園係

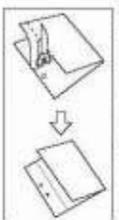
〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1  
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421

(お便り・お問い合わせは こちらまで)

発行年月  
2019年11月

通刊 83 号

この部分を  
切り取って  
ファイルにす  
ると便利です



## 初版「いたち川情報マップ」の紹介 第10弾!!

平成8年（今から22年前）に初版「いたち川情報マップ」発行！  
いたちかわらばん71号から順次紹介しています



### ○いたち川情報マップ（栄区中心部のいたち川）

JR本郷台駅周辺は昭和15年頃海軍燃料廠として形成され、それに伴う道路整備（現在環状4号線）が整備され、そこを中心として生活圏が形成されたようです。

その後、接收時代から返還をへて現在の栄区の中心部となったようです。公の施設や公務員住宅、市営住宅、公団などの住宅が多いことが伺えます。

#### ◇都市計画河川区間（日東橋から柏尾川合流点区間）

いたち川は日東橋から神戸橋間を「ふるさとの川事業区間」その下流柏尾川合流点までは、治水を目的とした2面張り（護岸をコンクリートやコンクリートブロックで作られたもの）構造ですが、いたち川はその河川空間を利用して自然環境に配慮した構造になっています。

#### いたち川散策路

「川辺の道」と呼んでいるのは日東橋から天神橋間でその下流の散策路は「いたち川プロムナード」となっています。

#### ◇石橋



昔は石を渡した橋でした。関東大震災（大正12年）で落ち、その後、橋の石は、本郷小学校の西門の門柱として現在も確認することができます。その外にも予備の石がいたち川改修工事の時に上耕地橋際で発見されています。

#### ◇駒形堂橋

鎌倉街道との間の高台に将棋の駒の形をした光背を持つ観音様を収めたお堂があったことから、駒形観音橋が縮まって駒形堂橋になったと言われています。

明治期の神仏分離と廃仏毀釈によって、栄区内の神社仏閣が多く取り壊されたと言われています。駒形観音堂もその時に無くなったのではないかと考えられますが詳しいことはわかりません。

#### ◇天神橋

環状4号線が建設されるまでは、上耕地橋の位置にあったと言われています。上流部の右岸の散策路脇に天神様の小さな祠が保存されています。



#### ◇水辺の低水路



この区間の河床形態は、水とコンクリートが触れない構造とするため左右の川べりには土や石によって、澱みや早瀬が出来るようになっています。

水流によって川底は、浅かったり深かったり変化が来て、土手や草の生える川辺には、アメンボウ、メダカ、カエル、カメなど人気の場所に成っています。

#### ◇桜並木

いたち川沿いには多くの桜が植えられています。本川には天神橋から海里橋間の右岸にソメイヨシノ、区役所周辺や右支川合流部には、横浜緋桜、オオシマザクラ、ヤマザクラ、シダレザクラなど、石橋の下流には岐阜県高山市から贈られた庄川桜（24号参照）が2本植えられています。

#### ◇オイカワ（ヤマベ）

明るい浪立の少ない平瀬が好きでなので、川が整備されて仲間が増えました。このあたりは、川が屈曲し、中洲や川の浅い・深いもあり、生き物にはうれしいところ。

オイカワは、アユの養殖の時、アユ稚魚に混ざって人為移殖されたと考えられています。

#### 編集後記

この地域は、時代の政策により翻弄された場所で鎌倉時代は、多くの武士や貴族が住んでいたようで、近年になると、終戦によって基地として接收され、その後返還され、現在、住宅地化している場所です。

84号も引き続き、いたち川情報マップの紹介を継続して中流域を解説いたします。（水・人・子）

#### 「市民科学」シンポジウム

「地球の未来のための協働」

標記のシンポジウムが、主催 国土交通省 水管理・国土保全局下水道部流域管理により、八月八日、パシフィコ横浜で開催されました。

国土交通省 白崎亮氏、東京都市大学教授 小堀洋美氏による「市民科学」についての講演がありました。

● 講演内容は、市民科学とは、「一般市民が科学的な活動に関わることで、その多くは科学者や化学研究機関と協働あるいはその指導を受けて行われる」と解説されており、これまでの調査研究と言え「研究者や行政などの専門家が取り組むもの」と受け止められていましたが、自発的な市民が調査研究のプロセスに参加することで、社会の課題に対して関係機関と協働して積極的に取り組めるアプローチについての話がありました。

● 事例発表として横浜市環境創造局 富永裕之課長、岡山理科大学付属高校 宮内伸弥氏、武蔵野市 高橋正之氏からそれぞれの事例について発表がありました。

① 市内のいたち川、舞岡川で中学生によりハグロトンボ調査を行い、下水道のことについて、改めて「聞き、学び、考える」ことで相互の新たな研究テーマを見つけて、学校関係機関や川の活動団体により調査、研究を進めていること。

② 先進的取組の事例として、ホテルの保護のための水路や河川の草刈り時期について市民が理解していることなど、栄区の地域の財産を大切に育てる活動をしていること。

③ いたち川 OTASUKE 隊の「いたちかわらばん」が「市民科学」の先進的既存取組であること。

の紹介がありました。

● パネルディスカッション（テーマ 市民科学による地域の課題解決について）パネラーの方から出された課題として

- ① 処理水の問題として、放流水の温度が高いことによる生物に与える影響や、放流水の再利用についての問題点。
- ② 処理水の経路を多くの人に理解してもらい最終的に河川に放流されることになるが、下流の人たちの飲み水として利用していることを伝えること。
- ③ 河川によって災害をもたらすことの実態からハザードマップの作成に市民が参加する必要性。
- ④ デイスポーザーの普及により、プラスチックごみが海に流失する量が増える可能性が考えられる。

以上の意見が出され、これから市民や子供たちが現地を観察し問題点を提起しながら自然の成り立ちを発見していくことが「市民科学」に繋がると結論に達しました。

（水・人・子）